

市民向け上映会 ぼけますから、よろしくお願いします。

市では、地域にお住いの皆さんが在宅医療や介護について理解し、在宅での療養が必要となったときに必要なサービスを選択できることを目的として、市民向け上映会「ぼけますから、よろしくお願いします。」を開催します。ぜひご参加ください。

- 【日時】 3月15日(日) 13:00~15:00
- 【場所】 プラザリュウ五所川原 (市内雑田181-2 Tel.33-5001)
- 【主催】 五所川原市
- 【定員】 200名 (先着順)
- 【申込方法】 電話で地域包括支援センターまでお申し込みください。
締め切りは、3月4日(水)、参加費は無料ですが、アンケート調査へのご協力をお願いします。定員になり次第締め切りとさせていただきますので、お早めにお申し込みください。
- *市では、平成29年度より、医療と介護の両方を必要とする高齢者の方が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進する事業を行っています。
- 【問い合わせ】 介護福祉課 地域包括支援センター
Tel.35-2111 (内線2461)



**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あなたはあなたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

**大反響のテレビドキュメンタリー、
待望の映画化。**

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。

